



お客様の夢を希望へ
希望を製品へそして進化へ。

あいさつ
会社の歳時記
技術の時間
ちょっとコーヒータイム

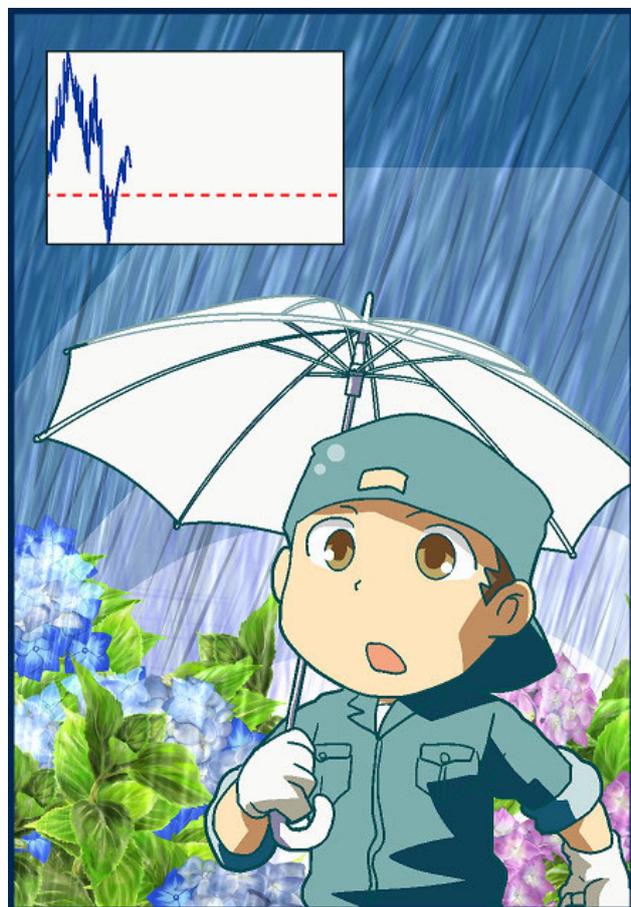
Vol.26

(有)今泉大伸



〒441-3131
愛知県豊橋市大岩町字小山塚62-28
:0532-41-8282
FAX:0532-41-8297
E-mail info@imaizumidaishin.co.jp
<http://www.imaizumidaishin.co.jp>

あいさつ



6月に雨が降ったり降らなかったり変な季節がつづきます。

日本の経済も株が上下の乱高下して正念場のような感じがしていますね!!

また帝国データバンクにおいても中小企業においてもやはり正念場であるとの報告がなされている今日このごろです。

ただそんなこともありながら、忙しい所暇な所といろいろあり、結局『運』なのかな?、そのような感じもします。

しかし夏場を迎えるにあたり、やはり体調だけは整えないといけないと思っております。

それにはまず気持ちを楽に持って「**なんとかなるさ!**」このような気持ちが必要なのかもしれません。

夏に向ってGo - - !!

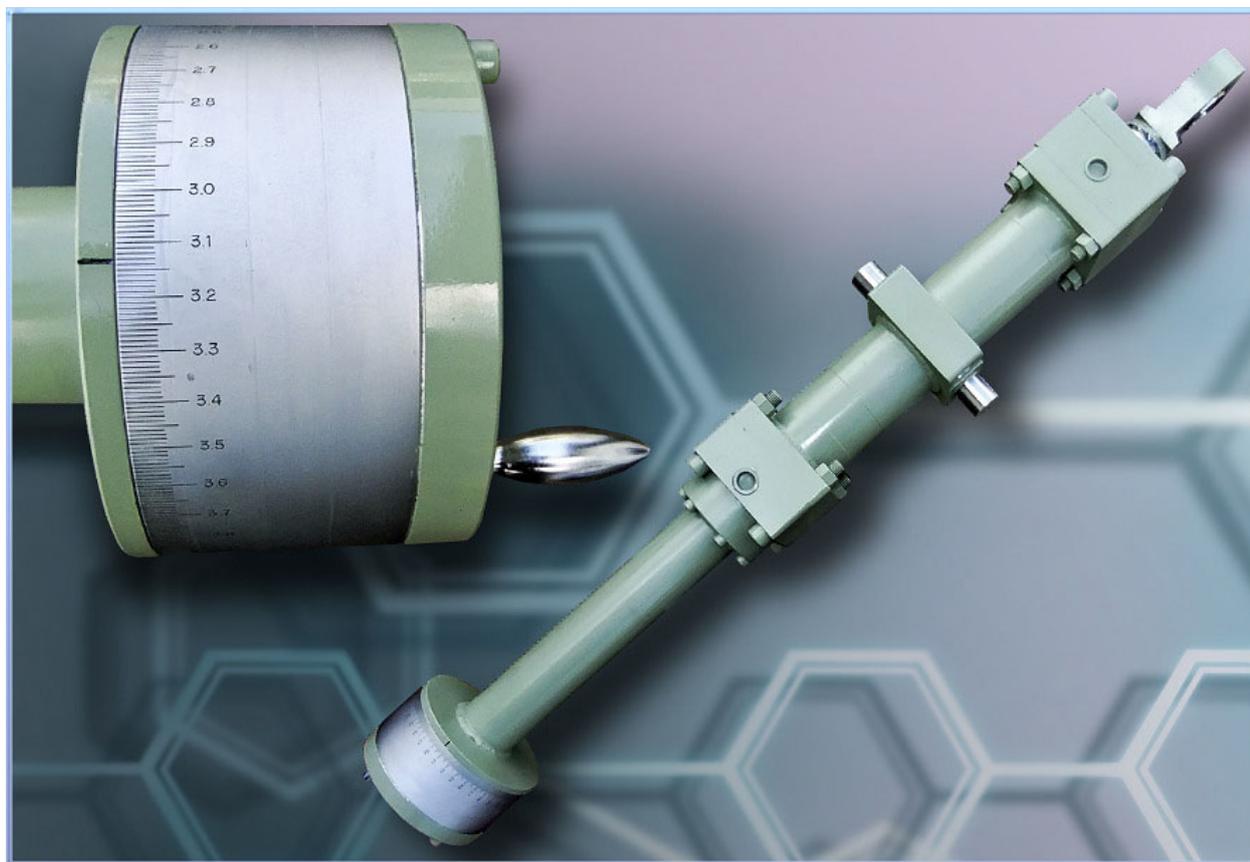
今月号もお楽しみ下さい。

会社の歳時記

あるお客様より「全ストローク調整のできるシリンダーをつかってほしい」というご依頼を受けました。仕様としては、耐圧21Mpaで作って欲しいとの事。

そこで当社では、下記のような全ストローク調整用のシリンダーを製作いたしました。当社では高精度停止用油圧シリンダー「寸法バッチリ君」を製作していますので技術的には可能という事がわかっていました。ただネジ部が長くなるので、ネジの自重で回らなくなるということも考えられます。

製作してみて心配は的中しましたが、初めから想定していましたので問題は解決することができました。



当社ではお客様の要求する仕様を満たす製品を提供しております。今回もその一例で、このシリンダーの特徴としましては、内部に荷重に耐えられるよう台形ネジを使用しております。

ネジ自体にも強度を持たせるために材質を変えて作成してあります。

当社ではこのような変わったシリンダーも製作しております

『本を読もう...問題が解決しなくても』

技術の時間

テレビで今ブレイクしている林修先生が勉強嫌いの人達に言っていましたね。『本を読もう』。

「これだけは譲らんぞ!!」「本を読まなくてもいいじゃない!!」そう思っている人は多いかと思います。

これは私の体験なのですが、私がマイコンの技術を習得する時、当時本しか頼るものがなかった。しかし本って、読みこなす力が必要なんですよ!!

どういうことかと言いますと、自分が今欲しい知識・解決したい知識はなんなのか、そのポイントを自分の中で押さえる必要があるのです。

そして、そのポイントがこの本には書いてあるのかをしてみる。以前本を買って、自分にとって大切なところ、欲しいと思ったところが2ページだけなんていうこともありました。

それでもそれらをちゃんと踏まえることによって問題解決の糸口がつかめるようになります。

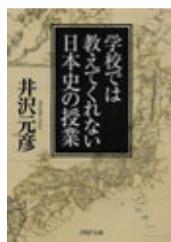
例えば経理の問題、技術の問題、経営の問題、いずれについてもとにかくまず解決しそうな本を探し当て、一度読み、そこから糸を手繰るようにそれらの問題を解決していくのが早いと思います。

人に聞くにしても、自分自身問題点がわからないと相手にしてもらえません。

「とにかく本を読もう」!

一番の問題のカギは、私たちの中にある問題解決の能力を育てることなのですから!!





学校では教えてくれない日本史の授業
著者 / 編集：井沢元彦
出版社：PHP 研究所

伊沢元彦氏の「**学校では教えてくれない日本史の授業**」という本の中にあつたのですが、日本には『**言霊**（ことだま）』という考え方があるようです。

例えば太平洋戦争の開戦時において、日本には「この戦争に負ける」という声があつた。

またアメリカによるB-29に対する無差別攻撃を予感させる書籍をすでに出していたそうで、それは当時多く売れたそうです。

その為に軍部は慌ててこの件を否定するキャンペーンを張つたそうです。

ここで、私が言いたいのは、『**本の通りになつた**』。(それは結果としての考え方ではありませんが)

ここに、今にも通じる考え方があるのではないのでしょうか？

これはある方に教えて頂いたのですが、よく、多くのビジネス書において「言葉は具現化する」とありますが、どうもそうではないように思う。これは「**心**」が具現化させるのではないだろうか？とのことです。なるほどな、と思ひました。

とすると、悪い時なんかは心をフラットな状態にしておく必要があるのではないのでしょうか。

だからこそ、「**自分の心配をしていることを声に出す**」ことによって、心をフラット状態に戻せるのではないのでしょうか？

「心配をしている心の状態が形をつくっている」

今回はこのような事を教わりました。

